

新型コロナウイルス感染症対策に係る杏林アイセンター診療制限緩和のお知らせ

本年2月下旬より、新型コロナウイルス感染症(以下当該感染症)対策に係る杏林アイセンター診療制限(初診診療予約の制限)をお願いしてまいりました。皆様には、ご協力いただきありがとうございました。

現在、当該感染症の東京都感染者数の減少、および当院においては、直近2週間以上典型的な肺炎所見を伴う新規当該感染陽性患者の発生がみられなくなりました。そこで、診療制限を緩和し、日々の感染状況を勘案しながら、通常運用に近づけるように診療体制を整えてまいりますことをお知らせ申し上げます。

つきましては、先生方に、アイセンターへのご紹介に関しまして、緊急疾患に限定することをお願いしてまいりましたが、緊急疾患に限らず、大学病院での診察や治療などを必要とされる患者様のご紹介の受付を再開させていただきます。

なお当該感染症の状況は、今後も変動する可能性があり、再び診療体制の変更など余儀なくされることも考えられます。その点に関しましてご理解を頂きたいとお願いいたします。

引き続き感染拡大防止に努めながら、よりよい病診連携を目指しますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

イベント情報

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、延期や中止などの変更が生じる可能性がありますので、ご参加の際は最新の情報をご確認いただきたく存じます。

<第63回東京多摩地区眼科集談会>

Web 講演会形式にて開催予定 2020年10月10日(土) 14:30~17:00

会費:1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「進化を続ける緑内障診療」木村 至 先生(東海大学医学部専門診療学系眼科学 教授)

<第22回西東京眼科フォーラム>

2020年11月4日(水) 19:00~21:00 場所:吉祥寺第一ホテル8F 飛鳥の間

会費:1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「緑内障関連(仮)」井上 賢治 先生(井上眼科病院 院長)

<第3回日本近視学会総会>

開催日程:2021年5月22日(土)・23日(日)

開催場所:赤坂インターシティコンファレンス

主なプログラム

招待講演1:「Anti-myopia Eye drops」

Suh-Hang H. Juo 教授(Inst of New Drug Development, China Med Univ, Taiwan)

招待講演2:「Low-concentration atropine for myopia control」

Jason C. Yam 先生(The Chinese Univ of Hong Kong)

シンポジウム1:眼疾患における近視の影響

シンポジウム2:近視の疫学と進行予防

教育セミナー:近視外来のUpdate

編集部からのコメント

新型コロナ感染の流行で、社会生活様式も診療状況も大きく影響を受けています。web を利用した勉強会も増えています。こういう時こそ、お互いに協力と助け合いで乗り切っていきましょう。アイセンターも素晴らしい新入局医局員を迎え、皆が教えながら学んで、成長していきたいと思っています。(AH)

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 59
Summer
2020

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

◆アイセンター新入医局員の紹介(慶野 博)<1-2> ◆イベント情報<4>

◆Hida Memorial Study Abroad Award<3> ◆編集部からのコメント<4>

◆コロナウイルス診療制限緩和について<4>

<執筆者:括弧に明記 production:岡田アナベルあやめ、中山真紀子、富田茜、仲島みずき>

アイセンター新入医局員の紹介(慶野 博)

2020、この数字は眼科医にとって大変縁起の良い数字であるとともに今年、2020年は前回開催から56年ぶりに東京でオリンピックが開催される年として日本全体が大きな希望を持って迎える年となるはずでした。ところが年が明けて間もなく中国武漢にて新型コロナウイルスによる肺炎患者が急増、その後は日本を含めたアジア、さらには米国、ヨーロッパを含め瞬く間にパンデミック状態となり、4月から国内でも緊急事態宣言が発令され、原稿を書いている現時点でもまだ宣言解除に至っていない状況です。

このようなコロナ禍の大変な状況の中、今年度は5名の専攻医(野地將先生、前田菜津子先生、鎌田紗知衣先生、田中禎規先生、日下真吾先生)が杏林アイセンターに入局し、これにより現在1年目から3年目までの専攻医数は合計で17名と10年前では考えられないほどの規模となってきました。現在はコロナ感染対策のため対面でのクル



上段左から松木医局長、慶野准教授、井上教授、平形教授、岡田教授、山田教授
下段左から野地、鎌田、日下、前田、田中

ズスの代わりに Web での勉強会を主体に指導を行っています。今年度に入り多くの学会 Web 開催・延期など私自身も眼科医になってから初めての経験ばかりですが、専攻医の先生方はこの貴重な時間を使って成書じっくり読むなど有効に活用していただきたいと思います。これからの杏林アイセンターを担う諸先方の成長を願うとともに今後の大いなる活躍を期待しています。

アイセーター新入医局員の紹介



水野 雅春

本年4月よりVRフェローとしてお世話になっております水野雅春と申します。
湘南鎌倉総合病院で初期研修の後、東京医療センター、東京都立駒込病院を経て8年ぶりに母校で勉強させて頂くこととなりました。杏林アイセーターは外来、病棟、手術何れもが桁違いの規模ですが、特に並列で最大4件同時に施行可能な手術体制と件数の多さには日々圧倒されています。決して妥協せず、無駄のない、美しい手術が出来るサージャンになることが目標です。一つでも多くの事を吸収出来るよう精進させて頂きたいと存じます。ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、何卒宜しくお願い申し上げます



鎌田 紗知衣

今年度4月より入局させて頂きました鎌田紗知衣と申します。
出身大学は東京女子医科大学で、初期研修1年目は東京医科歯科大学病院、2年目は草加市立病院で研修致しました。杏林大学病院の見学に伺った際、充実した施設環境や先生が熱心に教えてくださり、私も先生方のような立派な眼科医になりたいと思い、入局を決意しました。ご迷惑をおかけしてしまうこともあるかと存じますが、精一杯頑張ってお参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます



日下 真吾

今年度、杏林大学眼科学教室に入局した、日下真吾と申します。
学生時代から平形教授、厚東先生に大変お世話になり、ようやく小さいころからの夢であった眼科医としてスタートすることができました。初期研修中に熱心に働き、患者と向き合う先生方の姿を目の当たりにし、杏林大学アイセーターで学びたいという気持ちが強くなり入局いたしました。実際に入局すると症例も豊富であり、指導医の先生方の熱心な指導を受けさせて頂いております。立派な眼科医になれるよう一生懸命頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



田中 禎規

今年度より入局させて頂きました、田中禎規と申します。
宮崎大学出身で、初期研修は当院で行っています。アイセーターにはあらゆる分野のスペシャリストがいっぱいいます。まずは眼科のジェネラリストを目指す私にとって、当院はどの分野もその専門家から学べるという最高の環境であると考え入局を希望しました。私は連携プログラムでの入局のため、後期研修の4年間のうち2年間を水戸の小沢眼科内科でも過ごす予定となっています。これ以上ない環境で学べる喜びを胸に日々精進してまいりますので、今後ともご指導のほどどうぞよろしくお願いします。



野地 将

今年度4月より入局致しました野地将と申します。
日本大学を卒業し、国際医療福祉大学熱海病院にて初期研修を修了しております。
杏林大学病院の見学に伺った際、充実した施設環境や先生方の医療に対する姿勢に感銘を受け、私もアイセーターの医師として働きたいと入局を決意しました。素晴らしい環境で眼科医としてのスタートラインに立てたことへの感謝を忘れず日々精進して参ります。至らぬ点も多く未熟者ではありますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。



前田 菜津子

今年度4月より入局させて頂きました前田菜津子と申します。
出身大学は杏林大学で、初期研修は町田市民病院で行いました。初期研修の時に眼科をローテーションした際に、白内障術後患者さんが物が良く見えるようになって喜んでいてを見て、眼科医を志しました。杏林アイセーターは症例数が豊富で各分野にスペシャリストの先生が多数在籍しており、また設備が充実しているので入局を希望しました。このような環境で学べることに感謝しております。至らぬ点はたくさんありますが、精一杯頑張りますのでご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

Hida Memorial Study Abroad Award

アイセーターは昨年の20th Anniversaryとともに、故樋田教授のご家族から頂いた寄付金を活用するため「Hida Memorial Study Abroad Award」を設立いたしました。

杏林大学眼科学教室の永遠の発展を願っていた樋田先生の生前の強いご遺志を尊重し、このアワードでは若い先生のグローバルマインドを育成するため海外への短期研修(2週間程度)をサポートする事としています。第1回のアワードは2019年12月に募集を開始し、2020年2月上旬に受賞者の中山真紀子先生と安藤良将先生が選ばれました。COVID-19パンデミックの中となり、今回の研修実施時期はある程度フレキシブルに設定したいと考えます。

今後のアイセーターの一層の発展に向けて、海外での研鑽を希望される方々のエントリーをお待ちしております。

(岡田アナベルあやめ)



中山 真紀子

この度、樋田先生のご厚意により杏林アイセーター海外施設短期研修制度が設けられ、第1回目の研修生としてご選考いただきました。私は眼科入局3年目から眼炎症外来に携わせていただき、その頃からぶどう膜炎関連の研究を数多く発表してきました。そのご縁もあり、2年間の出向を経て、大学帰室時に眼炎症を専門として選択しました。今まで岡田先生、慶野先生、渡辺交世先生方から温かいご指導をいただき、多くの症例を経験することができました。今回研修をさせていただくことで、眼炎症専門医としての知識を高め、患者さまによりスムーズで正確な診断、適切な治療を提供できるようになりたいと考えております。そして、去年台湾の高雄で行われた国際眼炎症学会で発表させていただいたこともあり、高雄のShwu-Jiuan Sheu先生のもとで研修予定となりました。ぶどう膜炎原因疾患の頻度や治療方針の違い、大学病院としての役割などを実際の医療現場で学びたいと考えております。



安藤 良将

今回、第1回Hida Memorial Study Awardに選んで頂き、誠に感謝申し上げます。私が、このAwardに応募した理由は2つあります。1つは、海外の臨床現場を見てみたいと思ったこと、もう一つは、海外の研究施設をみてみたいと思ったからです。

日本が直面している年々医療費が増えるという問題は、海外でも直面している問題でもあります。効果が十分にあり、かつ経済的な負担が少ない医療は、今後医療者側に求められるテーマだと思っています。既に海外では、抗VEGFの使用を制限している国もあります。制限がある中どのような治療を行っているのか、興味があります。

臨床の現場だけでなく、できれば研究している現場も見学できればと思っています。なかなか研究の内容に関してはconfidentialだと思いますが、こういった施設で、機械で研究しているのか見学できればと思っています。

2週間という短い期間で、どのくらい見学できるかは分かりませんが、とても有意義なものにしていきたいと思います。

Hida Memorial Study Abroad Award

第1回杏林アイセーター海外施設短期研修制度

この度、故樋田哲夫先生が遺してくださいました基金を活用し短期間の海外研修制度を設けることとなりました。海外での研修にご興味のある先生方、是非応募ください。

＜詳細＞	杏林アイセーターの研修医2年目以降～助教までの医師（1～2名）
対象者	2020年4月～2021年3月 2週間程度
研修期間	50万円（旅費・宿泊費として。不足分は自己負担）
賞金	2020年1月末日
応募締切	

＜条件＞

1. 研修先施設、期間は杏林スタッフにより認定
2. 明確な研修プログラム内容を選ぶこと
(米国Washington大学でのVR Observer ship Programの可能性あり)
3. 英語での面接合格
4. 帰国後1ヶ月以内のレポート（文書の提出と医局カンファレンスでの報告会）